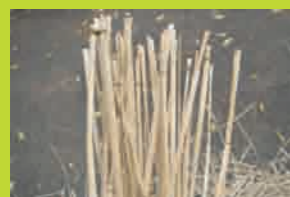


雪吊り・霜除け作業 ワラスぐり



ワラの元から10cm程の長さを押し切りで切り落とし1本1本袴を取ります。大量のわらくずが出ます。

雪吊り・霜除け

雪吊り作業 内藤縄の仕込み



吊り縄は内藤縄を使用。約50本の縄をくさり結びにして帆柱に巻きつけます。

雪吊り作業 丸太建て込み



作業所で仕込んだ帆柱の頭にワラボッチを被せ現場で丸太を建てこみます。

雪吊り作業バチ（竹）入れ



下方の枝を利用しながら「バチ」と呼ばれるかんざし状の竹を適当な間隔で設置します



雪吊り・霜除け作業
ワラボッチ編み



雪吊りはワラの穂で編む 霜除けはワラの元側で編む
ワラボッチ ウラボッチ



雪吊りは、雪による枝折れを防ぐため、雪の多い地域で松に多くおこなわれます。豪雪地帯では、柱から降ろした吊縄を直接各枝に結びつけ、枝を守る「りんご吊り」など実用的なスタイルを特徴としています。井の頭自然文化園の雪吊りは鑑賞を目的とした修景物「化粧雪吊り」として作っています。雪吊りの雰囲気を引き立たせるため霜除けも化粧飾りとしてこしらえています。3月上旬（啓蟄前後）までリスの小径正面の日本庭園でご覧になれます。



雪吊り作業
円周枠の結び

バチにシュロ縄をぐるりと配したシュロ縄と内藤縄を結束します。円錐形が特徴です

